

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：大師保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：柿崎 祐一	定員（利用人数）：130名
所在地：〒210-0825 川崎市川崎区出来野1-17	
TEL：044-266-7939	
ホームページ：https://www.zai-roudoufukushi-kanagawa.or.jp/daishi-hoiku/	
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2015年04月01日	
経営法人・設置主体（法人名等）：公益財団法人 神奈川県労働福祉協会	
職員数	常勤職員：26名 非常勤職員：10名
専門職員	（専門職の名称）：名 看護師：2名
	保育士：23名 栄養士：1名
	調理師：2名
施設・設備 の概要	（居室数） 居室：0歳児室 設備：調理室
	居室：1歳児室 設備：沐浴室
	居室：2歳児室 設備：調乳室
	居室：3歳児室 設備：遊戯室（ホール）
	居室：4歳児室 設備：事務室兼医務室
	居室：5歳児室 設備：プール
	設備：トイレ
設備：園庭	

③理念・基本方針

<理念>

●児童福祉法をはじめとする関係法令等を遵守し、保護者の子育て支援や地域の家庭保育への支援に積極的に取り組むとともに、地域の皆様にとって身近な児童福祉施設としての役割を認識した良質な保育サービスの提供に努めていく。

1. 子どもたち一人ひとりの人権を尊重しながら、子どもの健やかな成長発達を保障する。
2. 保護者との協力関係を築き、子どもの最善の利益と福祉の向上を図る。
3. 地域の子育て支援としての役割を果たす。

<基本方針>

1. 一人ひとりの子どもの心を大切に、意欲と豊かな心情を育み、活発に活動できる子どもに育てていく過程において、児童の人権と主体性を尊重し、豊かな愛情をもって健やかな成長発達を保障する。
2. 落ち着いた温もりのある雰囲気の中で、一人ひとりの欲求を受け止めながら、情

緒の安定を図り、健康に過ごせる環境を整え、児童が安全に安心して生活できる施設づくりを目指す。

3. 良質な保育環境を提供するため、年間を通じ職員研修を実施して職員の資質向上に努め、総合力を発揮できる職員体制を形成していく。

4. 保護者とのコミュニケーションを十分にとりながら、信頼関係を築き、また関係行政機関との緊密な連携と協力関係の推進を図る。

5. 集団生活の決まりの中で周りの状況を把握し、友達と一緒に楽しく保育園生活を送れるようにし、日本文化に定着した二十四節気に基づく行事に関心を持たせ、地域の伝承文化を尊重し、直に見聞、体験する催事を介して地域の子育て支援活動の充実を図り、利用しやすい保育園、信頼される保育園を目指す。

<保育目標>

1. 心身ともに健康な子どもを育てていく。

2. 友だちを思いやり仲良く遊べる子どもを育てていく。

3. 一人ひとりが大切にされ、自分の思いや考えを伝えられる子どもを育てていく。

4. 自然や社会の事象などいろいろなことに興味を持ち、豊かな感性を育み考えて行動できる子どもを育てていく。

④施設・事業所の特徴的な取組

<保育園の特徴的な取り組み>

●乳児期は個々のリズムを大切にし、子どもの欲求を満たすことにより安定した気持ちで過ごせるようにしています。幼児期になると規則正しい生活習慣を身に着けること、仲間関係の中で自分の気持ちを表現する力が身につくようにしています。

●乳児期よりリズム遊びを取り入れ、体の成長発達を補い、健康な身体づくりを目指しています。

●四季の移り変わりを感じる自然保育を大切にし、広い園庭を利用して様々な植物の栽培やビオトープを活用して生き物との関わりを行い、散歩等で出会う地域の生き物や植物にも興味を持ってもらうようにしています。

●自然保育と食育を組み合わせ、給食などの食べ物が何からどのようにできるのかを、園庭で植物を育て、見守り、収穫をし、味を楽しむという一連の過程を通して体験できます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年07月06日（契約日） ～ 2023年03月29日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2017年度）

⑥総評

【大師保育園の概要】

●大師保育園の運営は、公益財団法人神奈川県労働福祉協会（以下、法人という）です。法人は昭和32年に日雇労働者の経済的自立と生活意欲の向上等を目的として設立されました。現在は就労支援部門、保育を通じた子育て支援部門、その他に会館・プラザ等の部門があり、その保育部門として大師保育園の他、川崎市川崎区の東門前保育園、横浜市中区のことぶき保育園の計3園を運営しています。大師保育園は、平成22年に川崎市立保育園の民営化政策に伴い、市立大師保育園（昭和26年開設）を公設民営の指定管理者として同法人が移管を受け、平成27年4月1日、完全移管となり、法人3つ目の保育園として運営しています。

●大師保育園は、京浜急行大師線大師橋駅から徒歩8分の所に位置しています。近郊に川崎市の都市再開発プロジェクトにより「殿町キングスカイフロント」が誕生し、多摩川スカイブリッジが完成して羽田空港にも近くなったことから周辺地域にも新しいマンションが建ち並んでいます。大師保育園周辺は、昔ながらの地元商店街も残り、古き良き伝統の趣を残しながら、時代の最先端の影響を受けるエリアに位置しています。また、近くに産業道路があり交通量も多いですが、歩道は整備され、保育園入り口は大きな道から一本入ったところにあり、道を挟んだ東側はスーパーマルエツがあり、北・西・南側は駐車場や住宅地となっており安全が確保されています。

●園舎は、旧市立保育園の施設全体を継続して使用し、定員130名の大規模園ですが、ゆとりある園舎（836.84㎡）となっています。2階建ての園舎1階は、乳児保育室（0歳～2歳児）、厨房、洗濯室、職員休憩室、事務室があり、2階は幼児保育室（3歳～5歳児）、ピアノのあるホール、給食室直結のダムウェーター（小荷物用エレベーター）と配膳車置き場を設け、2か所ある屋上の1つにはプールが設置されています。各保育室、廊下は広々とし、広い園庭（1101.15㎡）には東側に大きな園庭と、西側は乳児が遊べる小さな園庭が設けられ、子どもたちが安心して安全に遊べる園庭となっています。また、園庭の周りには多くの樹木や果実が植栽され、野菜等の菜園や花壇があります。平成24年には保護者協力の下、地域の植物や昆虫が棲み、季節が感じられるビオトープが完成し、自然保育と地域を大切にする大師保育園の特色となっています。

◇特長や今後期待される点

1. 【自然環境教育】

四季を大切に、自然と関わり、命あるものつながりに出会い・触れながら、その中で成長し、育つよう、子どもたちに寄り添う保育を実践しています。広い園庭では、四季の移り変わりを自然を通して感じる事ができ、子どもたちの気づき・発見がたくさんあります。四季折々の花が園庭に植えられ、菜園では各クラスで季節の野菜を育て、果樹から果物を収穫したり、5歳児は水田で稲作をする等、自然が保育のベースになる取り組みが行われています。野菜の栽培は1歳児から始めますが、0歳児の段階から植物との触れ合いを指導計画に組み込み、「花や葉を見る、触れる」から始まり、「球根に触れる」、「栽培物の水やりをする」等、具体的に挙げ、実施しています。栽培では種がなる花を育て、種を取り、翌年にまた蒔いて育てることで自然界における命のつながりを子どもたちは実感できます。栽培活動では収穫して食し、そして、その先を考えた保育を行っています。例えば、5歳児が収穫した稲からの藁で正月飾りを手作りする等、収穫した体験を食、そして文化へとつなげています。また、10年前に園内に作られたビオトープには水生植物や、地域の昆虫や魚等が棲み付き卵から成長する姿を間近で観察ができ、命・自然の育みを大切にする心が育まれています。職員は「しぜんしんぶん」と称する壁新聞を作成し、園内の四季・自然との出会いから、園外で出会う自然にも興味・関心がつながるよう取り組んでいます。ビオトープは経年劣化により令和5年春に向けてリニューアルを進め、さらに自然環境教育に力を入れていきます。

2. 【園庭の菜園、水田を活用した食育】

園庭には季節の花や果樹だけではなく、菜園と水田もあり、菜園では1歳児から5歳児までの子どもたちが野菜を栽培し、各クラスで収穫を楽しむ他、秋には菜園でサツマイモを掘り、全クラスで焼き芋をする等、菜園や水田は保育園の大切なイベントを支える役割を果たしています。四季折々の野菜や果物ができる大師保育園の園庭は食育の現場でもあり、給食職員と保育士が協力して、食を楽しめる取り組みを行っています。乳児クラスでは彩りや見た目が分かりやすいプチトマト等を栽培し、幼児クラスになると

収穫祭に向けて大豆を栽培し、その大豆を使って味噌作りをします。5歳児は米の栽培を粃から収穫まで一年かけて行い、収穫後には収穫祭を開き、調理実習を行います。また、4歳児の時に仕込んだ味噌を使い5歳児クラスで育てた根菜を具にした味噌汁を作り、収穫した米で自分用のおにぎりを握ります。大豆の栽培から収穫祭までの流れの中で、子どもたちは植物を育て、収穫し、料理を作り、みんなで食す、という一連の過程を、実体験を通して学ぶことができます。園内の環境を最大限に活用して、季節の流れと食物の成長のつながりを知り、命のつながり、自然との関わり合いを実感する等、子どもの豊かな感性が育まれています。

3. 【完全給食の意義】

大師保育園は完全給食であり、川崎市の献立を利用しながら個々に合わせたアレルギー対応も行い、完全給食ならではの工夫を取り入れています。0歳児は離乳食対応を行い、栄養士と担当保育士とで段階を決め、家庭で食べた食材を採用しながら提供する等、きめ細やかな対応を行っています。2歳児以上ではトウモロコシの皮むきや豆類のサヤを剥く等、調理のお手伝いを行い、収穫した園庭の果物でジャムを作る等、体験を通して楽しみながら食を身近に感じる取り組みを行っています。行事食では、盛り付けや切り方の見た目を華やかにする工夫をする他、行事に関係する食材、例えば、ハロウィンの大カボチャを園内に展示する等、行事を通じて食材に興味を持つよう取り組んでいます。また、毎日の献立は乳・幼児別に給食の実物を紹介し、その日の食材の実物を入り口付近に展示する等、食材をより身近に感じてもらうよう工夫しています。給食をはじめとする食べ物は、全てが生きているものからできていて、時間や手間をかけてでき上がることを知り、調理する人への感謝も含め、意義のある取り組みを実践しています。

4. 【ICT化のさらなる推進について】

大師保育園では現在、ICT化を推進しています。人材採用時に、記録等の手書きに難色を示す人への対処や、保護者からもデジタル化の希望の声等を鑑み、連絡帳や記録におけるアプリの導入を考え、ICTシステムへの移行に取り組んでいます。今年度から、データ管理をUSB方式から、園内にハードディスクを設置しサーバーでの集中管理へと移行しています。結果、USBの破損や持ち出しのリスク、データを同時に複数個所で使えないといった問題も解消し、保育日誌等の文書管理もICT化を進めることによって、情報共有の円滑化・効率化を進めています。また、登降園管理も保護者のスマホからのQRコード式に変更し、タイムカードの打ち間違いの解消や、延長保育料、給食費（主食、補食）等の電子決済を採用し、事務の効率化を図っています。法人系列2園よりもICT化は後発ですが、他の状況を参考にしながら大師保育園に合ったシステムを取り入れ、積極的に導入していかれることを期待します。

5. 【園舎の長寿命化について】

公立保育園時代から歴史と共に、卒園児や近隣の方、地域に親しまれてきている大師保育園ですが、園舎の老朽化は中・長期計画での課題となっています。園では、建て替えよりも長寿命化改修による有効利用や補強の方向で考えています。長寿命化は廃棄物も少なく、サステナビリティにも貢献し、園の姿勢に合っており、地域に親しまれる施設として、地域の拠り所としても大きな役割を果たせることが期待できます。メンテナンスしながら永続的に使い続けるためには、定期点検の実施や計画的な補修・補強プランの作成、建築履歴（メンテナンス履歴）の作成及び保存、施設の現状と課題の把握が必要となります。行動計画の策定時点で把握可能な状況を踏まえ、維持管理、更新等に係る課題を整理し、これまでの維持管理の取り組み状況を把握し、中長期的な維持管理、更新、コストの見直しを行う等、今後の取り組みを期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名： 公益財団法人神奈川県労働福祉協会 大師保育園

<評価（自己評価等）に取り組んだ感想>

- ・運営に関する設問事項も多く、一般職員には難解な内容であったが、同時に全職員に伝えることの必要性も感じる等、改めて色々考えさせられた。
- ・職員の人数が多いこともあり、全員で相談することが難しく、個人→小グループ→リーダーと段階的にまとめたため、もっと早い時期からの取り組みが必要だった。

<評価後取り組んだ事として>

1. 評価が出たのが年度末のため、職員の中で評価を共有したが、具体的な取り組みに関しては新年度以降となる。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり